



# 川の国応援団通信



フリー！フリー！川の国応援団  
 川の再生交流会開催！

埼玉県のマスコット  
 「コバトン」

平成28年2月6日(土)、午前10時半から市民会館うらわにおいて、川の再生活動に取り組んでいる皆さん、約450名が一堂に会し、「川の再生交流会」川の国埼玉 あなたが未来に残すもの」を開催しました。

午前の部第1部は、県立浦和第一女子高等学校アナウンス部の司会でさわやかに開催されました。

始めに、伊奈町立小針中学校合唱部の皆さんにオープニングコーラスで「川の流れのように」「ふるさと」を披露していただきました。

開会の挨拶は半田順春埼玉県環境部長が行いました。続いて、「川の国埼玉宣言」を行い、壇上にはオープニングコーラスを行っていただいた伊奈町立小針中学校の皆さんも加わり、会場の皆さんと一体になって、盛大に行われました。

続いて、環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 浄化槽推進室 浄化槽企画官の吉川圭子氏から「浄化槽と埼玉県の水環境」と題しまして「講演をいただきました。生活排水が埼玉県の水環境に与える影響と単独浄化槽を合併浄化槽へ転換していくことの重要性についてお話しいただきました。

小・中学校における環境学習事例では、松伏町立松伏第二中学校 教諭 飯島眞氏より「ESD・環境教育を実現するための様々なネットワークの実践事例」地域ネットワークから国際ネットワークへ」についてお話しいただきました。環境学習の事例を題材にして持続可能な社会の構築のための教育、ESDについて触れながら、実践的な学習に加えて、様々なコミュニケーション階層の人々と協同していくことの重要性についてご説明いただきました。



川の国埼玉宣言

午前の部第2部は川の再生活動を行っている皆さんから事例発表が行われました。

事例発表は、戸田の川を考える会の理事 長谷川孝雄氏より「戸田に『アユの棲む川』を」、越谷市出羽地区自治会連合会の事務局長 松苗 眞吉氏より「出羽地区の環境美化 河川浄化と土手周辺の清掃活動を続けている50年について」、大阿蘇水質管理株式会社

の統括部長 横川孝男氏より「綾瀬川をきれいにする活動」について発表していただきました。

午後第1部は、初心者向けからベテラン向けまで幅広いテーマを設定した分科会を行いました。

今年の分科会のテーマは①「始めの一步」ボランティアの始め、地域の役に立ちたい」②「美化活動のすすめ」ごみのない川、魚が泳ぐ川」③「環境学習」地域と学校を結び、学ぶ」④「多自然の川づくりと環境保全」自然と心を結ぶ川づくり」⑤「100プランとまるごと再生事業」継続させる活動と交流」⑥「水質改善」我が家の排水はどこへ行く。マナーの向上」の6つのテーマで行われました。各会場とも活発に意見交換が行われました。

分科会終了後、埼玉県河川環境団体連絡協議会大石昌男氏の閉会宣言により、川の再生交流会は閉会となりました。

参加者からは、「普段のひとりひとりの生活の意識が大切だと思いました。目に見えない部分がいかに取り組む、環境への意識を高めていくかが大切だと感じました」といった感想等をいただきました。川の再生活動に取り組む団体の皆さんにとって大変有意義な交流会となったようです。



事例発表の様子



分科会の様子

# 会員のひろば



## 活動報告

～600団体が県内各地で活動中！～

今回は、2月6日に開催した「川の再生交流会」に参加された2団体からの報告です。

### 「綾瀬川をきれいにする会」 【大阿蘇水質管理株式会社】

横川 孝男

「綾瀬川をきれいにする会」の発足は今から8年前。全国河川水質ランキングワースト5の常連である綾瀬川を「何とかしたい。」との思いから、地域住民の方々と話し合い、会の発足に至りました。

綾瀬川は桶川市小針領家に起点があり、葛飾区東四つ木で中川に合流します。東京湾につながるまでの流路延長は約47kmあります。私達の活動拠点は東武スカイツリーライン蒲生駅

高架下から4号

バイパスにかけての約1.5kmです。

活動は主に春と秋の年2回行われ、地域の方々と力を合わせ、



専用の碇を使って粗大ゴミの引き上げ作業をします。春には対岸の桜並木が美しく、活動中にザリガニやうなぎ、水鳥を見る事もあります。その姿を目にすると、生き物の生命力の強さを感じ、私達の活動が少しでも役立つているのだと実感します。

綾瀬川は水源がないと言われているので、汚れの原因は流入源が原因とされています。私達の会社は浄化槽の保守管理会社という事もあり、綾瀬川周辺のみなし浄化槽を合併浄化槽に転換する事も勧めており、生活排水対策に協力をしています。

今回、「川の再生交流会」に参加させて頂き、埼玉県内の環境保護や川を守る団体の方々と交流を持つ事が出来ました。県内にこれだけの団体が集まる会に参加出来た事は、私達にとって貴重な経験になりました。そして、行政と地域住民、私達のような環境保護団体が情報交換や連携をしていく事の大切さを強く感じました。今まで、私達の活動に評価をいただき、表彰を受けた事もありましたが、今回、「川の再生交流会」で活動報告をし、会場の方々が興味や関心を示してくれたことは、私達にとってそれ以上の喜びとなりました。

これからも地域住民の方々と協力をし、次世代にきれいな川を残せるよう、川の再生を目指して活動を継続して参ります。

『伝右川再生に向けた支援プロジェクト』活動報告と『川の再生交流会』分科会報告

【獨協大学経済学部国際環境経済学科米山ゼミ】

淵ヶ谷佳祐・松澤知也

私たち、獨協大学経済学部米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」チームは、綾瀬川の支川である伝右川の再生を目指し2013年に立ち上がりました。現在活動する学生はゼミ生以外の学生も含めて14名ほどで、伝右川を再生するために自分たちにできることを考え、主な汚染原因である生活排水の流入を減らすため、地域住民に対する啓蒙活動を中心に活動しています。

とくに、近隣小学校での環境教育や、児童たちに未来の伝右川の絵を描いてもらう絵画コンテスト、地域の小学生を対象としたワークショップなどを実施し、「子から親へ」河川の大切さを伝える活動を行っています。その他、雄飛祭では展示発表を行うとともに、2014年から「伝右川再生会議」を開催しています。昨年の第2回で

はこの1年間の活動報告をするとともに、今後の川の浄化・再生に向けた取り組みを行程表として整理し、新たな提案をして意見交換をしました。



また、「川の再生交流会」には一昨年から毎年参加させていただいていますが、今年2月の「川の再生交流会」には本プロジェクトより8名が参加しました。第2分科会では、淵ヶ谷がサルベージ活動やカヌーに乗って川の浮遊ゴミを拾う美化活動について報告しました。また、第3分科会では松澤がこれまで実施してきた小学生を対象とした単発の環境教育について報告するとともに、大学生と小学生の継続的な交流が期待できるホテル飼育支援プロジェクトについて報告しました。メンバーが分担してすべての分科会に参加させていただき、活発な意見交換を行って多くのことを学ぶことができました。

プロジェクトの活動は、まだ始動したばかりです。自分たちが卒業して終わりではなく、後輩に引き継ぎながら継続して取り組んでいきたいと思っています。

川の国アドバイザー  
制度の紹介



今回は、環境学習を実施した川の国アドバイザーのお二人と、川の国アドバイザー制度を利用した1団体の感想を紹介します。

「埼玉県環境科学国際センターの夏休み特別企画講座」

八木橋 孝雄

【川の国アドバイザー】

平成27年7月18日(土)に環境科学国際センターにて開催の「川の生き物で環境調査をしよう」に手伝いに行ってきました。数日前の雨による川の増水のため、事前に確保するはずだった川の生き物の採集ができず、水の汚れについての学習が中心になりました。家族ごとに分かれたテーブルには、どの家族もカメラやノートがあり、意欲に驚きました。

はじめに、埼玉県の水やその汚れについて、映像などを使って説明があり、熱心に聞いてメモをしていること、その姿を見て、「すごいな」と感心させられました。

次に、容器に入った透明な水を二種類配布し、どちらが水道水で、川の水はどちらか判定する活動です。においや汚れ具合などの五感

を使つての判定と、パックテスト

を使つての化学的な判定の両面からです。パックテストの使い方や、その色の変化からどのようなことがわかるかを説明しましたが、色の変化で判定できることに驚いていました。得られた結果をもとに、最後の判定です。すべての班が正解しましたが、川の生き物による判定ができず残念でした。



「環境問題に気づき、生き物を学ぶ心と体験のサポート」

【川の国アドバイザー】

渡辺 仁

市野川に隣接する東松山市立新宿小学校の自然を利用した環境教育では、水辺や川に生息している生物を観察し、図鑑などで分類し、在来種を選び校内のミニ水族館(5つの大型水槽)で飼育・観察を続けている。また、学校応援団の「市野川を再生させ隊 in 松山」が前日から採水した市野川・滑川・都幾川の3河川の水質検査(パックテスト)を行い、流域の水環境の違いを学んでいます(6年生の小学年児童たち)。

小学校周辺で唯一親水が可能な河原や水辺が出現する吉見百六前

の礫河原で、市野川探検と生き物観察会を実施してきた(3年生児童達、PTAの見守り隊)。

『2・6川の再生交流会』第3分科会環境学習でも明らかにした「子供の頃、川遊びをしたことがない先生が多く、学校で環境学習が進みにくいという指摘、環境教育推進法が成立しても、学校現場でノウハウが不足しているという問題」は、新宿小学校でも同様の傾向にあったが、PTAの積極参加や市役所の環境プロジェクト登録・支援などにより解決してきた。

淵や流れの速い箇所も有る中流域の河川で「川あそび」を伴う水辺体験であるため、RAC(川に学ぶ体験活動協議会)などの講習を受けた比企の川づくり協議会々員や、県認定の環境アドバイザーの支援を受けて、今後も毎年実施していく予定です。



「遊水地の生き物、大発見！」

【川口市立新郷東小学校】

田嶋 康子

本校では毎年、四年生の総合的な学習の時間に、学校に隣接している遊水地に生息する生き物や植

物を観察・調査し、調べ学習に取り組んでいます。

今年度も、6月18日に、川の国アドバイザーの横山隆先生においでいただき、フィールドワークを行いました。

横山先生を「隊長」を呼び、張り切って出発した子供たちは、様々な昆虫や魚、植物などを発見することができました。



した。曰くは遊び場としか思っていない遊水地で、40種類近くも生き物を発見したことに、子供たちはとても驚いていました。中でも、絶滅危惧種である「コガネグモ」を発見したことは、一番の驚きでした。昨年度は「冬虫夏草」を発見し、遊水地はまさに自然の宝庫であると実感できました。

横山先生は、子供たちに何を聞かれても答えてくださり、まさにスペシャリストです。活動中、子供たちの目は輝き、夢中になって生き物をさがしていました。

この活動を通して、子供たちは身近な自然を見直し、自分たちができることを考え、大切にしているという気持ちをはぐくむことができました。

# 川の国埼玉検定を実施

## 【入門編】

入門編は、8月と10月の2回実施し、337人の参加がありました。

イベントの水環境課のブース内に、パネルを展示し、パネルをヒントに問題を解いていただきました。

子どもから大人まで幅広い方々に挑戦していただきました。全員が5問中4問以上正解され、認定証とコバトンシールを差し上げました。



## 【中・上級編】

中・上級編は、11月28日(土)、さいたま共済会館で実施しました。

今回で6回目の開催で、県内各地で川の再生活動等を長年続けられている方19名が受検しました。

検定の合格基準は、正解率80名%以上で上級に合格、60%以上で中級に合格です。

今回の検定では、上級合格者が2名、中級合格者が5名でした。

上級合格者の中で、「ご了解いただいた方には、「川の国アドバイザー」として登録させていただきます。環境学習の講師などとして川の再生活動団体などを支援していただきます。



# 川の国応援団への支援制度

川の再生活動に役立つ支援メニューを用意しています。ぜひご活用ください。

## 資料の貸出し(主なもの)

- ▽ライフジャケット(子ども用・大人用)
  - ▽タモ網
  - ▽観察ケース
  - ▽胴長靴
  - ▽カヤック(2人乗り)
- 資料保管課所(水環境課等)での、受取と返却をお願いいたします。



## 資料の提供(主なもの)

- ▽パケットテスト(COD)
  - ▽のぼり旗
  - ▽のぼり旗用ポール
  - ▽軍手
- 提供数量には上限があります。郵送等を希望の場合は、送料の負担をお願いいたします。



## 資料・会報等の印刷、講師派遣

- ▽A4片面1000枚までの白黒印刷
  - ▽環境学習の講師の派遣、講師への謝金の支給。
- \* \* \* \* \*
- お気軽にお問い合わせください。  
水環境課のホームページにも掲載しています。  
なお、支援を受けた場合には、実績報告書の提出をお願いいたします

# 川の国応援団イベント年間スケジュール

川の国応援団登録団体へご案内する平成28年度のイベントの実施予定時期です。

なお、今後変更となる可能性もありますので、実施時期の1~2か月前にお送りするご案内で確認してください。  
ふるってご参加ください。



- 6~7月 川の再生地域交流会
- 7月 水生生物講座
- 6~9月 全国水生生物調査(環境省主催)
- 7~9月 川ガキ養成事業
- 夏頃 川の魅力実感イベント
- 11月 川の国埼玉検定(中・上級編)
- 平成29年2月4日 川の再生交流会

発行 埼玉県環境部水環境課

〒330-9301  
さいたま市浦和区高砂3-15-1  
(第3庁舎1階)  
TEL:048-830-3088  
FAX:048-830-4773  
E-mail:a3070-03@pref.saitama.lg.jp

- ☆活動予定や活動報告などをお寄せください。
- ☆資料の提供や貸出し等のご希望があればご相談ください。
- ☆連絡先等の変更があればご連絡ください。

川の国応援団のHP  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0505/kawanokuniouendan/index.html>

